

平成26年度 東洋学研究情報センター共同研究課題年次実績報告書

1. 研究課題名

日本所在漢籍に見える東アジア典籍流伝の歴史的研究—宮内庁書陵部蔵漢籍の伝来調査を中心として—

2. 申請研究者

(氏名) 高橋智 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫

3. 申請者以外の共同研究者

(氏名) 小倉慈司 国立歴史民俗博物館
金文京 京都大学人文科学研究所
佐藤道生 慶應義塾大学文学部
住吉朋彦 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
陳捷 国文学研究資料館
堀川貴司 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫

4. 研究期間

平成26年4月1日から平成28年3月31日(2年間)

5. 課題の概要(600字程度)

本研究は、平成24～25年度共同研究のテーマ「日本漢籍集散の文化史的研究—「図書寮文庫」を対象とする通時的蔵書研究の試み—」の継続研究として、宮内庁書陵部所蔵漢籍の伝来調査と各図書の本誌調査を一体化することによって伝統的蔵書文化の特徴を明瞭に把握しようとするものである。既に、伝来単位である公家・大名・幕府・近世漢学者等に焦点を当てた分担調査が進行中であるが、伝来単位の蔵書構成を解明することは、漢籍文化がどのように我が国に浸透し発展してきたかを理解する有力な観点の一つであることが共同研究者の共通する認識となっている。最も歴史ある書陵部蔵書は、アジア諸国の皇室・宮廷蔵書文化と比較しうるものであって、ここに我が国固有の書物文化のエキスをみることができる。漢籍の刊写、時代鑑定、唐本・韓本・和本の審定を基礎として、中世博士家・三條西家等公家・東福寺を始めとする古刹・日典や大通等の釈家、更に金沢文庫・足利学校を中心とする学堂と、近世を遡る蔵書史と、徳川家康以来の駿河御譲本・楓山文庫・昌平坂学問所、毛利高標・市橋長昭・新見正路等の大名武家の蔵書史を有機的な流動史として捉え、更に漢籍伝来の歴史を見据え、中国・朝鮮・日本・越南の蔵書文化との連携・共有・差異を探る基礎知識庫の構築を目指すものである。

6. 今年度の研究実施状況(400字程度)

宮内庁書陵部本の書誌調査を基本に、漢籍蔵書文化の概略を把握する調査方法として、書陵部に伝わる家別の伝本調査を行った。それぞれの家と担当(分担者)は次の通り。宮家・小倉、九條家・佐藤、秘閣・高橋、毛利・金、山内・陳、古賀・堀川、国分・大木。主な調査書と数量は以下の通り。三條西実隆写白氏文集等公家関係12点、明刊本を中心とした秘閣本67点、元刊本を中心とした毛利本19点、明刊本を中心とした国分本6点、清刊本を中心とした古賀本17点。それぞれ書誌ノートを作製し、特に旧蔵者の調査にも注意して、画像撮影との連動をはかっている。これらのデータの検討を行う研究会は、4月19日、5月29日、6月13日、7月25日(慶應大学で開催)、8月26日～28日(きらら鎌倉で開催)、10月3日、11月21日、12月11日、平成27年1月30日、2月21日(京都大学人文科学研究所で開催)、括弧内の記載以外はすべて東大東文研会議室にて開催。

7. 今年度の研究成果の概要(400字程度)

個別の関連論文は、佐藤道生・『三河鳳来寺旧蔵曆応二年書写 和漢朗詠集 影印と研究』,490頁,勉誠出版,2014年、住吉朋彦・「九条家本『白氏文集』卷十六残簡」書陵部紀要, 65, p.80-86, 2014、『方輿勝覽』版本考,斯道文庫論集,49,p167-237,2014、小倉慈司・「東山御文庫本『字書目録』(勅封164-74)」国立歴史民俗博物館研究報告,183,pp.83-207,2015、宮内庁書陵部蔵壬生家旧蔵本目録(稿),禁裏・公家文庫研究,5,p463-362,思文閣出版,2015、堀川貴司・「漢籍から見る日本の古典籍—版本を中心に—」調査研究報告,第34号,p.13-23,2014、種徳堂本『春秋経伝集解』について,高田時雄教授退職記念東方学研究論集,p143-152,臨川書店,2014、などであり、他に研究会参加者若手メンバーによる成果論文も多数報告されている。口頭報告として、大木康、住吉朋彦が8月24日ソウル大学校奎章閣にて開催された第七回ソウル国立大学校奎章閣国際シンポジウム東アジアの出版文化:知識の形成および流通」に於いて、デジタルアーカイブ「宮内庁書陵部収蔵漢籍集覧」の紹介を行った。画像データベース作製の一環として、書陵部蔵・「大般若波羅蜜多經」600巻 唐玄奘訳 宋趙安国版(積砂版) 西大寺旧蔵 579帖(510-1)の一部のデジタル画像化をはかった。書陵部所蔵漢籍旧蔵者データベースは、金沢文庫など代表的な箇所30所ほどを選び、順次その解説、蔵印画像を組み込んで、東アジアの蔵書伝流研究の基盤とする。

8-1. 共同利用・共同研究活動の状況

(1) 共同研究のための研究会、シンポジウム等の実施状況

開催期間	形態(区分)	対象	研究会等名称	概要	参加人数
H26.4.19ほか 12回開催	研究会	国内	書誌データ研討会	書陵部漢籍書誌調査の報告検討	延べ68名

(2) 上記(1)の研究会、シンポジウム等の参加状況

区分	機関数	平成26年度						
		受入人数			延べ人数			
		外国人	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	外国人	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	
東京大学内	1	3	1	1	9	5	1	(1)
国立大学	1	1	1		2	2		
公立大学								
私立大学	3	14 (4)	1	2 (1)	5 (1)	50 (15)	1 (3)	20 (4)
大学共同利用機関法人	2	4 (2)	2 (2)		1	4 (2)		2 (2)
独立行政法人等公的研究機関								
民間機関								
外国機関	1	1	1			3	3	
その他								
計	8	23 (6)	5 (2)	3 (1)	7 (2)	68 (17)	6 (0)	8 (3)

(3) 共同利用・共同研究に供する施設・設備及び資料等の利用状況等

○データベースの作成・活用・利用・公開状況

	データベース名	蓄積情報の概要	公開方法	蓄積量/利用・提供状況	
				蓄積量	画像1万7千齣他
1	宮内庁書陵部収蔵漢籍集覧・書陵部所蔵漢籍旧蔵者データベース	漢籍の画像データと書誌データ、並びに漢籍旧蔵者の解説	公開準備	利用(アクセス)件数	

※カウントできないものについては欄外にその理由を記入して下さい。

(4) 独創的・先端的な学術研究を推進する特色ある共同研究活動

東アジアを代表する漢文資料宝庫・宮内庁図書寮文庫の蔵書源流を調査し、旧蔵者の特徴・意義などを一般の方々にも分かりやすく理解できる知識庫作製の取り組みによる漢籍文化の再評価を目指す。

(5) 国公私を通じた研究者の参加を促進するための取組状況

研究会の開催は、研究者全般に開かれており希望者には随時参加願っている。早稲田大学・慶應大学等から研究者・大学院生が参加し、特に若手研究者の参加により、古典籍調査の経験を積んでいる。

(6) 共同利用・共同研究を通じた特色ある人材育成の取組

海外の研究者を受け入れ、日本の東アジアに於ける漢籍受容、漢字文化の受容発展を理解していただき、海外でその現状を紹介していただけるような漢籍研究のグローバル化に貢献していくことを念頭に、本年は、研究会に、プリンストン大学のブライアン・スタインガー氏（慶應大学訪問教授）を招いている。

(7) 関連分野発展への取組（大型プロジェクトの発案・運営、ネットワークの構築 等）

日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究A）による「宮内庁書陵部收藏漢籍の伝来に関する再検討ーデジタルアーカイブの構築を目指してー」（代表・住吉朋彦）による漢籍画像・書誌データの公開に伴い本研究の核である旧蔵者データベースもその公開運営に連動して知識庫を共有することができる。

8-2. 共同利用・共同研究による研究成果

(1) 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数（参加研究者がファーストオーサーであるものを対象）

区分	平成26年度	
論文数		
うち国際学術誌に掲載された論文数	16 (14)	1 (1)

※下段の()内には、東文研以外の研究者による成果(内数)を記載。

(注) 高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合、その雑誌名、掲載論文数、そのうち主なもの
※ 東文研以外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

掲載雑誌名	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
故宮文物月刊	1	五山版の意義ー以楊氏観海堂蔵書為例	<u>住吉朋彦</u>
国立歴史民俗博物館研究報告	1	東山御文庫本『字書目録』(勅封164-74)	<u>小倉慈司</u>
国語と国文学	1	官版集部について	<u>堀川貴司</u>

(注) インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合は、以下にインパクトファクター以外に顕著な業績と判断できる適切な指標とその理由を記載の上で、掲載雑誌名等を記載。

※ 東文研以外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

インパクトファクター以外の指標とその理由	文学・文献学専門の雑誌として一定の評価を得ている		
掲載雑誌名	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
斯道文庫論集	1	『方輿勝覧』版本考	<u>住吉朋彦</u>
駒澤大学仏教文学研究		五山文学における偈頌と詩	<u>堀川貴司</u>

(2) 共同利用・共同研究による特筆すべき研究成果(特許を含む)

「宮内庁書陵部収蔵漢籍集覧」(画像・書誌データ)が公開される予定であるとともに、旧蔵者データベースが利用されれば、古典籍研究全般の共益となる

※共同利用・共同研究による国際的にも優れた研究成果や産業・社会活動等に大きな影響を与えた研究成果についてご記入ください

(3) 共同利用・共同研究活動が発展したプロジェクト等

プロジェクト名	主な財源	プロジェクト期間	プロジェクトの概要
宮内庁書陵部収蔵漢籍の伝来に関する再検討ーデジタルアーカイブの構築を目指してー	日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究A)	平成24年度～平成28年	書陵部所蔵漢籍の画像データのオンライン化と書誌データの調査

※プロジェクト研究に発展した共同利用・共同研究がある場合、そのプロジェクト研究の名称と財源(国の補助事業等)、期間、概要を記入して下さい。